

バスケ男子

23～29日・東京

能代科学技術

(4年連続
50度目)

全国で輝け

大舞台に挑む本県高校チーム

①

実戦形式の練習でフレイ精度を高める能代科技の選手。同校体育館



さがけ 動画



年末年始の高校の全国大会は23日のバスケットボールを皮切りに駅伝、ラグビー、サッカー、バレーボールが行われ、

名門のスタイル健在

れる。県予選を制し、全国の強豪に挑む本県代表を紹介する。8回連続。

◇ 全国高校選手権(ウインタースタイル)最多20度の優勝を誇る能代工の伝統を受け継ぎ、統合1年目に50度目の出場を決めた。ガード高橋裕心(3年)は「自分たちの結果が下の世代につながっていく。いい形でバトンを渡したい」と意気込む。

場を決めた。ガード高橋裕心(3年)は「自分たちの結果が下の世代につながっていく。いい形でバトンを渡したい」と意気込む。

手は口をそろえる。秋田西との県予選決勝は序盤からリードを許す苦しい展開だったが、最終盤でスチールから速攻をかけて逆転。勝負どころで持ち味を発揮した。ゲームを組み立てるのは視野の広さと引き出しの豊富さ

が光る司令塔の高橋裕。味方を生かすパスだけでなく、自ら切り込んで局面を打開するドライブや3点シュート(3P)の精度も高い。

夏の全国高校総体(インターハイ)では1回戦で出雲北陵(島根)に100点ゲームで快勝し、統合後全国初勝利。

高橋裕は「春から取り組んできた攻守の切り替えの速さが生きた」と手応えを語った。だが福岡大(福岡)との2回戦ではシュート精度と体格に勝る相手に押し込まれ、75-93で力負け。最後は高橋裕の個人技に頼らざるを得なかった。

雪辱を期す舞台に向け、明るい材料は190センチのフォワード中嶋正亮(3年)の成長だ。インサイドだけでなく3Pにも磨きがかかり、内外から多彩な攻撃を仕掛ける。中嶋は「積極的にリングにアタックして、早めにリズムをつくりたい」と力を込める。

高さは全国レベルと差があるだけに、堅守速攻のスタイルにとられず、外角シュートやセットプレーといった攻撃の幅で流れを引き寄せた。小松元監督は「フットワークを使いながら、駆け引きで勝負できるかが鍵になる。ウインターカップでのテーマは能代工時代の部訓でもあった「必勝不敗」。目標は日本一だが、高橋裕は「まずは一戦一戦を大事にする」と誓った。

(間杉大旗)



番	位置	氏名	出身	身長(センチ)
4	SG	藤原健太郎③	島田	174
5	PF	中嶋正亮③	山田	190
6	SG	工藤凌③	山王	178
7	PG	高橋裕心③	天拝(福岡)	175
8	PG	設楽海人③	山形第四	169
9	SG	秋葉泰輝③	山形第三	178
10	SG	大野耀斗③	日進(埼玉)	187
11	SF	大日向恵③	横手明峰	181
12	SF	木村胡伯③	本荘北山	175
13	PG	佐藤光汰③	石鳥谷(岩手)	169
14	SG	相原一生②	山	177
15	C	安田圭汰②	秋田南	188
16	SG	中野珠斗①	城南	176
17	SF	高橋輝②	大館東	181
18	PF	大高琉翔①	東雲	186

(丸数字は学年、◎は主将)

©秋田魁新報社